

企業名： 株式会社 ADEKA

レポート名： ADEKA report 2024

## 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

中期的な将来の姿はとても理解できた。

新中期経営計画「ADX 2026」を軸に、社会価値の向上と持続的な成長に向けた戦略や目標について具体的に述べていた。p.5~10の社長メッセージからは、事業別に稼ぐ力をどう強化するかや、サステナビリティについての「2030年 KPI」をどう達成するかなどが理解できる。また、「ADEKA グループらしい成長にこだわる」という欄では、「地域の人々の力を借りながら、ともに成長していく」といった前半部分は、抽象的であり ADEKA のユニークさはあまり感じられなかった一方で、後半部分の「コングロマリット・プレミアム」の発揮に関しては、具体的な事例を挙げており、成長の仕方の ADEKA らしさを理解することができた。

p.15~18では、ありたい姿として ADEKA VISION 2030 の説明がなされている。ADEKA VISION 2030 は、統合報告書の随所で重要性を持って掲げられているものの、ADEKA VISION 2030 についての説明は乏しく、ぼんやりとしたスローガンに見えてしまう。そのため、p.17~p.18の2030年 KPI の目的意識が理解しづらい。p.27で記されていた、研究開発部門における2030年のありたい姿のように、各部門のありたい姿が明示されると、ADEKA VISION 2030 はより明瞭化されると感じた。

p.19~22の中期経営計画 ADX2026 の説明はとても分かりやすく、ADEKA の目指す中期的な将来の姿の理解に役立った。情報・電子材料を主軸に置いた戦略的な事業拡大や、環境に配慮した製品拡大、人的資本の向上などによる経営基盤の強靱化によって、資本効率重視の経営を意識した ROIC などの経営指標の達成を目指していることが理解できた。

また、全体を通じて、サステナビリティを推進して社会的価値を高めることと、高収益にすることで将来の成長を目指していることがとても理解できた。より理解を深めるには、サステナビリティの推進と高収益化を同時に行なっていく上で、サステナビリティと利益追求の間に生まれうるトレード・オフ関係についてどのように考えているか示されてほしいと思った。

## 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解できた。

p.3のイントロダクションで、「世界の業界シェア No.2」「国内新車採用率 100%」「業界シェア 50%超」などの言葉で、主要製品についての競争優位性がすぐ理解できた。また、p.12の価値創造ストーリーからは、ターゲット市場が明確に定められた上で、どのような

優位性を持って事業を行い、どのような価値を提供できるかを認識できる。

また、競争優位性の理解にとっても役立ったのが p.61～の事業別戦略である。セグメント別に、樹脂添加剤では「長寿命・資源循環」、食品事業では「90年以上にわたり培った油脂加工技術」といったように強みが把握でき、また、事業環境認識とそれに対する対処や戦略が書かれていたため、各事業で具体的に何が競争優位なのか、またはどのような点で競争優位になっていくのかが理解できた。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

事業によっては部分的に理解できる。

p.21 の中期経営計画にある情報・電子材料の拡大の箇所で、中期的に半導体の戦略製品をどのように拡大していくかが表で理解できた。設備投資額を増やし、販売ターゲットをさまざまな観点で増やすことで、主力である情報・電子材料を中長期的に拡大させ利益を確保することで持続性を持っている。

事業別戦略では、目指す姿を掲げていたが、現在もつ強みが、外部環境や企業内部の戦略を受けてどのように継続するのかはあまり分からない事業もあった。化学品事業では、需要や市場拡大、技術革新に伴って事業拡大していくという旨でしか持続性が語られておらず、ADEKA 独自の持続させる努力が明瞭に記されてはいなかった。その一方で、食品事業では、高収益化に向けた事業構造改革という点で、市場の動向と企業内の製品開発を根拠に持って、持続性が理解できた。また、ライフサイエンス事業では、ライフサイエンス事業が持続的に安全で安定的な食の確保や豊かな暮らしを守ることが、根拠とともに記されていたことで、持続性を理解できた。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

概ねそう思う。

p.37~44 で人的資本への姿勢や人的資本投資などが詳しく述べられていた。ADEKA 人材育成体系で、職務別に受けられる研修体系が確立されており、ビジネス・海外・語学・キャリア支援といったさまざまな研修が受けられるため、自分が成長できる機会が豊富に与えられていると思った。特に良いと思ったのは、自律的なキャリア形成を行うためのキャリア研修制度である。企業から一方的に与えられたキャリアに従うよりも、自発的なキャリア設計をできることは、時代の流れ的にもとても魅力的な姿勢である。そして、キャリアを本人任せにしない受け皿も確保されていることは、かなり安心材料になる。

また、健康経営にも積極的に取り組んでおり、健康管理や、ヘルスリテラシー教育など多岐にわたるプログラムやイベントが用意されていて、ADEKA は健康経営にかなり注力している印象を受けた。ただし、そうしたプログラムやイベントの様子が写真等で掲示されると、より想像しやすくなり、期待が持てると思う。

## 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点は、ADEKA が考えるマテリアリティが分かりやすいことである。重要性の高いことに対しては、複数回述べたり、分量を多くしたり、具体化したりすることで、「ADX 2026」「サステナビリティ」「電子材料」「人的資本」などがADEKA のマテリアリティでありアピールポイントであると印象強く残った。また、目標とする財務指標とサステナビリティ指標が、重点を置いたものに絞って簡潔に数値で表されていたのも、現実的で明白であり良いと思った。

改善余地としては、具体的な事例や写真掲示が少ない点である。広範囲のステークホルダーが ADEKA の統合報告書を見て、企業実態を理解することが想定される。具体例を挙げれば、半導体の製品に詳しくない人や、就職を考えているためどのような雰囲気やキャリア研修が行われているか知りたい人、環境対策が適切に行われているか知りたい事業範囲の地域住民なども、統合報告書を活用する可能性がある。そのため、彼らが直感的にそれらを理解するために、写真や実際の事例を掲載することは重要である。特に、中期計画の核心となるサステナビリティの推進をはかるのであれば、p.35~の ESG の箇所写真も図表も少なく、実態があまり掴めない情報開示は避けるべきである。

### 参考文献

株式会社 ADEKA 「統合報告書 | ADEKA」  
[https://www.adeka.co.jp/ir/library/pdf/corporate\\_report2024\\_full\\_j\\_low.pdf](https://www.adeka.co.jp/ir/library/pdf/corporate_report2024_full_j_low.pdf)